

報徳園だより

〒514-0065 三重県津市河辺町 1317-1
TEL:059-228-1951 FAX:059-228-1952 <http://www.houtokuen.jp/>

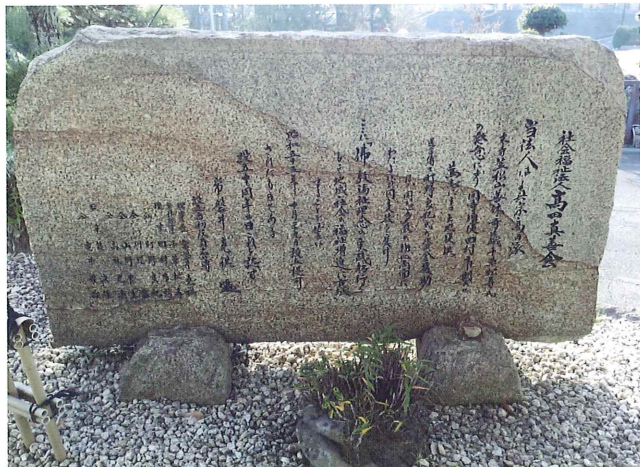
題字 理事長 常磐井堯禎

仏教福祉と常磐井堯禎・初代理事長

園長 千草篤磨

報徳園の母体である社会福祉法人高田真善会は、昭和55年に仏教福祉理念の実践躬行を掲げ、常磐井堯禎・初代理事長によって設立されました。仏教福祉とは、単に仏教行事をする老人ホームやお寺が設立運営する福祉施設の中で行われている福祉というだけのものではありません。「慈悲」の心や「利他行」の実践などの結果として仏教福祉実践が生まれるのです。

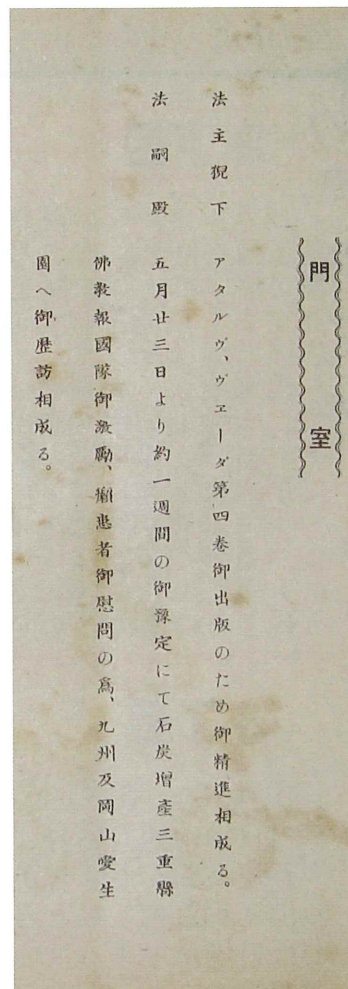
さて、初代理事長は当時、高田本山第23世法主で、高田福祉事業会会長や三重県共同募金会会長など社会福祉事業の要職を兼務しておられました。この様な中、社会福祉法人高田真善会の設立にも尽力されました。設立10周年に際しての「ここに仏教福祉の実践躬行をもって地域社会の福祉増進に貢献することを誓う」という、初代理事長の花押が彫られた碑文（写真）が玄関前に残っています。初代理事長は戦前の法嗣（次期法主）時代から福祉活動に熱心で、非行少年の施設である専精学舎の設立、三池炭鉱慰問、



ハンセン病患者の療養所である長島愛生園の慰問など積極的に行動されました。

昭和18年5月の「本山報告」（高田本山発行）には、「法嗣殿 5月23日より約1週間のご予定にて石炭増産三重県仏教報国隊御激励、癩患者御慰問の為、九州及岡山愛生園へ御歴訪相成る」（写真）という報告が記されています。戦争中、危険な炭鉱の中に自ら入って、炭鉱内で働く人びとを激励された事は、ご自身の著書の中でも語られています。また、当時は感染力の強い恐ろしい病気だと考えられていた癩病患者の療養所を慰問されたことは、人間の尊厳を考える上でも特筆すべきことであり、当時の長島愛生園の患者さんも大いに励まされたことだと思われま

す。この様な初代理事長の精神を受け継ぎ、仏教福祉の実践躬行に努めていく所存です。



入所者のみなさんの生活は、
心身の状況に応じて4つのゾーンに分かれています。

1丁目

一年の計は元旦にあり。1丁目の利用者さんも元旦の午後には「修正会」に参加して、「正信偈」をお唱えし、園長の年頭挨拶を聞いて、各丁目で最年長の男女1人ずつが代表として年賀の杯を受けました。毎年恒例行事ではありますが、利用者さんはいつもより少しおしゃれな服を着て、偶然にも報徳園という一つ屋根の下、人生の最後を共に暮らすこととなった仲間と、お世話させて頂く職員も一緒に、新年を迎えることが出来た喜びを「今年もよろしくお願ひします」のあいさつに込めて、新年が始まりました。



2丁目

12月27日、年の暮れの風物詩でもある恒例行事、餅つきを行いました。臼と杵を持って各丁目を回り、皆さんの声援を受けながら職員、利用者さんに餅をついてもらいました。杵を持って力強く餅をつく利用者さんや、慣れた手つきで餅の手返しをする利用者さんの目覚ましい活躍により立派な餅が出来上がりました。

出来上がった餅は、きな粉、餡子、大根おろしの味付けをし、食べやすくしてから昼食で召し上がって頂きました。コロナ等で大変な一年でしたが今年も美味しい餅を食べる事ができました。また来年にも美味しく立派な餅が作れるよう皆さんの無病息災を願います。



3丁目

10月9日、秋というにはいささか暑さが際立ったこの日は中秋の名月、十五夜の日でした。私たちは十五夜と聞くと「月が綺麗に見える日」や「団子をお供えする日」などという印象を持ちますが、諸説では日没が早まる秋の収穫期でも月明かりの下、作業が出来ることがあるから、月を神様とたたえてお供え物をする文化が生まれたといわれています。今年は利用者さんの体調を考慮し、夜間の観賞会は叶いませんでしたが、日中に秋の歌や十五夜に因んだ飾り付けをご覧になったり、記念写真を撮り、秋の訪れを感じて頂きました。



4丁目

4丁目では利用者さんに楽しんでいただけるように、日常的に午後から歌や体操のレクリエーションをしています。昔懐かしい歌や季節の歌を皆で歌ったり、ラジオ体操、うめぼし体操で体を動かしています。又、テレビ体操の時間にテレビ前に行って上手に体操しています。レクリエーションの無い時間はテレビ番組を見たり、談笑したり、ソファや椅子に座って休むなど、利用者さんによって様々な過ごし方をされています。歌や体操を行う事で誤嚥予防や心肺、身体機能低下の予防にも繋がります。今後も健康維持をしながら利用者さん皆が楽しめるレクリエーションを行ってまいります。



デイサービスセンター報徳園（認知症対応型通所介護）

最近のデイサービスは、男性の利用者の方が増え、レクリエーションの内容も変わってきています。紙飛行機を広告で作って飛ばすというレクリエーションを行った時には、目を輝かせて生き生きと参加される利用者さんの姿がありました。お正月を前に、利用者の方々と話をする中で、「昔は藁で草履を作るのに縄ないしたがな」「山仕事で木を切るのが得意」などの話で盛り上がりました。そこで利用者の方と「縄ない」



を行いしめ縄を作り、竹を切ってもらい門松を作り上げました。今年のデイサービスは「職人技」を取り入れながらのレクリエーションにも取り組んでいきたいと思っています。

在宅介護支援センター

地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加させて頂きました。地域が抱えるさまざまな課題について、多機関・多職種が集まって話し合い、解決策を探っていきます。具体的には、ケアマネジャーや民生委員から地域包括支援センターに相談があった困難事例に対する検討や、どうすれば高齢者の方がその地域で安心して生活ができるか、その地域に必要な取り組みについて一緒に考えます。ケアマネジャー自身が、自らの業務を振り返る機会にもなり、参加された関係機関とも連帯感が生まれます。それぞれが『点』として動くのではなく、『線』の機能を果たす為に、地域ケア会議は重要なツールです。





入所者インタビュー

前川 佳子 さん (86才)

報徳園に来る前も施設に入っていました。その前は家で暮らしていたけど、転ぶことが増えて危ないと言われて施設に入りました。ここに来た当初は、話し相手がなくて、悩んだり、イライラする事もあったけど、「イライラしても損するだけ」と良いように考えるようになりました。ここへ来てもう一年が経って、随分慣れましたよ。私は若い頃から合唱団に入っていたので、歌うことは楽しみです。実習生さんや音楽療法の先生と歌ったりすると気持ちが晴れます。職員の間も良くやってくれていますよ。この前みんなでチューリップを植えて、部屋から見える所に置いてもらったので、芽が出るのを楽しみにしています。これからもよろしく願います。



家族インタビュー

長男ご夫婦 木田 英敏さん・裕子さん
(デイ利用者 木田 稔さん 88才)

報徳園に入所する前は、母が介護をしていましたが、認知症もあり、24時間介護が必要でした。昼夜関係なく母を呼んで、先に母が倒れるのではないかと思う程でした。そんな中で報徳園に申し込みに来た時に、広々としていてゆったりしている感じを受け、他の施設も見に行きましたが、報徳園の環境が気に入りました。入所後すぐに骨折してしまいましたが、怪我の功名と言いますか、退院後は穏やかにニコニコしていて、家にいる時より顔色も良く、ありがたいと思っています。直接面会(20分間)ができることに加えて、リモート面会ができるのもいいですし、機会があれば一度してみたいと思います。

介護がこんなに大変だということに身染みて感じています。救って頂いたことをとても感謝しています。細かい事にも気を付けてもらいプロだなと思える施設です。



地域のみなさんへのインタビュー

社会福祉法人高田真善会評議員・三重県議会議員 舟橋 裕幸 さん



「笑う門には福来る」と言われます。また、病気の治療方法においても「笑い」を取り入れているそうです。日本人の平均寿命は伸び続け、令和3年には男性81歳、女性87歳になりました。ただ、医療・介護の助け無く自立した生活ができる健康寿命は、男性72歳、女性75歳です。当然、平均寿命と健康寿命ができるだけ近いことが理想的です。私は、今67歳です。私の周りの人々を見ると、「随分老けて見える人」「若々しく見える人」がいます。「若々しく見える人」に共通するのは、「よく動く」「よく食べる」「よく喋る」「よく笑う」「友達が多い」という傾向があります。人は一人では生きていけません。また、健康が最も大切です。

報徳園のモットーは「笑いとふれ合いのある暮らしの場」です。いつまでも健康であり続けるため、笑顔絶やさぬ生活に心がけ、元気で楽しい人生を送れる生活を心がけましょう。

医務室より

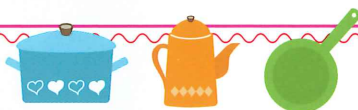


新型コロナウイルス感染症発生から4度目の冬を迎えましたが、コロナウイルスは次々とタイプを変えながら蔓延し、なかなか終息できません。この様な中ではありますが、新型コロナ感染症を前提とした生活に慣れてきたように思われます。冬季はインフルエンザとの同時流行やノロウイルス感染も懸念されます。

医務室では感染対策として9月に4回目のコロナワクチン接種、11月にインフルエンザワクチン接種をし、12月にノロウイルスの研修を行いました。皆さんが安心して生活できるよう、手指消毒、マスク着用、換気など基本的感染予防策を取り、異常の早期発見、早期対応に努めて参ります。



給食業務より



園内の厨房では、利用者さんのための食事を手作りしています。一日約400食の食材を2~3人の調理員で前日に下処理し、提供当日に早番2人で調理します。出来るだけ冷凍を使わず、新鮮な旬の食材を仕入れているため高齢者向けに食べやすいよう、葉物野菜は小さく切ったり、ゴボウなどの根菜は圧力をかけたりと、工夫をこらしています。写真は鱈の切込みをしている所です。魚は生だと柔らかく調理できますが、骨があるため手の感覚に意識を集中し、丁寧な骨取りをしています。今年も利用者さん第一の食べやすくおいしい食事作りを頑張っていきます。



事務室より

今号から、1年に1回事務室について掲載する事となりました。様々な事を発信したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、第1回は事務室の紹介です。事務室では、5人の事務員が交替で8:00から17:30まで勤務しています。まず、朝一番に事務室と玄関周りの掃除をしてからそれぞれの仕事にとりかかります。仕事内容は、主に利用料の計算、利用者の方や施設の金銭管理、職員の支援など様々な事を行っています。

もちろん電話やお客様の対応もしています。事務室一同、明るく笑顔で皆様への対応をさせていただきますので、何かございましたらお気軽にお声がけください。



職員研修会

現在、報徳園では介護職員を対象にした介護技術の研修が行われています。講師は高田短期大学の服部優子先生で「やさしいからだのつかいかた」というテーマです。私たち職員は介護技術を学んではいませんが、日々の業務の中で知らず知らずのうちに体の使い方にクセがついてしまっていることもあります。腰痛などの体の故障を防ぐため、研修では「ボディメカニクスの基本」を教わりました。

ボディメカニクスとは、体を動かすときに骨格や筋肉の相互作用をうまく利用して最小限の力で最大の力を引き出す技術のことです。この技術をうまく利用することで介助する側だけでなく、利用者さんの負担も軽くなります。介助する側は「安定した姿勢」と「負担の少ない身体の動かし方」を意識して実践する必要があります。まず安定した姿勢になるには両足を前後または左右に広げ、腰を落として重心を低くします。次に負担の少ない身体の動かし方には①介助される人との距離を近くする、②背中・腰・足など大きな筋群を意識して使う、③手前に引く動作を活用する、④重心は平行に移動させる、⑤身体をねじらない、⑥この原理を応用するという方法があります。また介助される人には腕や膝を曲げるなど身体全体を小さくまとめてもらうことで、介助しやすい体勢になります。

力学的作用を活用するボディメカニクスですが、服部先生によると、介助される側である利用者さんへの声掛けが、とても大切だということでした。例えば利用者さんにベッドから立ち上がってもらう場合、利用者さんには「今から立ちますね」ではなく、「立ち上がってもらえますか」と伝えることです。行動を促す声掛けをして、利用者さんが動いたタイミングに合わせて介助することで負担が少なくなります。

ボディメカニクスは技術的な面のみを重視するだけでなく、利用者さんと信頼関係を築くことで、より安心できる介護へと繋がります。介護職員が利用者さんの安心に配慮した介護をするということは自身の体を効率的に動かすことであり、その結果、身体の故障を防ぐことができます。そのためにも日頃から体調管理に気をつけて、正しいボディメカニクスを実践していきたいと思えます。



新任職員紹介 ~新人職員3名の自己紹介です~



久我 一真 (介護職員)

11月1日から新しく入職しました介護職員の久我一真です。

前職の障害者施設での経験を活かして利用者さん一人一人に合った支援・寄り添った支援ができるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。



新山 溪太 (介護職員)

昨年の12月に入職しました介護職員の新山溪太と申します。

以前はデイサービス、老健で勤務していました。

今迄の経験を活かし、報徳園で利用者さんの生活を安心・安全に過ごしていただける様、努力いたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



浅野 正己 (介助員)

1月から設備環境保全室に介助員として入職しました。

前職はサービス業を40年勤め、営業や接客など様々な仕事をしていました。

人と関わることや、話すことが好きなので、「笑顔でコミュニケーション」を大事に、今後も笑顔絶やさず、頑張っていきたいと考えております。よろしくお願ひします。



「長老」と「老人」

鈴鹿市 浄国寺住職 藤浦弘導

四苦八苦という言葉がありますが、老いるということは四苦「生・老・病・死」の中の一つです。人間歳を取ると身体の自由がきかなくなり、以前は簡単に出来た事が、今では苦勞してやっと出来るという様になります。ですから歳は取りたくない、若い頃はよかったと思うようになるのです。さて、仏陀の説法の中に「第一の座、第一の水、第一の食を受く」という話があります。

ある時仏陀は弟子たちとともに旅をしていました。ある日のこと、彼らはある精舎に着いて宿ることができました。翌朝早く仏陀が目を覚まして咳払いをすると、外の本の樹の下でも、また咳払いする者がありました。「ここにいるのは誰か」「世尊よ。私です。サーリプッタ（舎利弗）です」「サーリプッタか。どうしてそんなところにいるのか」と聞いてみると、前日の夕方のこと、この精舎が見えると、みんなが先を争って駆けつけ、部屋を取ってしまったので、最後になった彼は、寝るところもなく、一樹のもとに夜を明かしたという事でした。やがて仏陀は比丘たちを呼び集めて、昨夕の彼らの行動をいましめて言いました。「比丘たちよ、なんじらの中において、第一の座、第一の水、第一の食を受くべき者は誰であろうか」と。

彼らの答えは様々でした。仏陀は、彼らに教えて言いました。「比丘たちよ、なんじらはすべて互いに尊敬し、そして和合してゆかねばならない。その中にあっても、出家してからの年月に応じて礼を尽くすべく、長老こそ、第一の座、第一の水、第一の食を受くべき者である」と。

身分、家柄、地位、名誉、財産などに関係なく、その人の行いが全てなのです。礼を尽くすに値する、尊敬される生き方こそ長老にふさわしい人物です。歩んできた人生に誇りをもって、今までに得た経験と知識を若い人に伝えていけば「長老」として慕われます。しかし、何も為す事なく、人から慕われる事もなく、ただ老いだけの人物を人は「老人」と言い、ある時は無視され、ある時は疎ましく扱われ、邪魔にされることでしょう。

願わくは、身体は不自由であっても尊厳を失わず、毅然とした態度で人にやさしく、おだやかに生活していきたいものです。

夢の会 車椅子寄贈

11月28日にボランティア団体の「夢の会」より車椅子の贈呈がありました。当日は会長の杉崎孝和さんと、顧問で県会議員の舟橋裕幸さんが報徳園を訪れ、朝のお参りの後で、贈呈式が行われ、赤い車椅子一台をいただきました。

「夢の会」は、理容師の方々のボランティア組織で、老人ホームでの理髪ボランティア活動とともに、施設に車椅子を贈る活動にも取り組んでおられます。今年度は報徳園が贈呈対象施設に選ばれました。大変ありがたいこととして、入所の方々及び職員一同心より感謝申し上げます。



設備環境保全室

報徳園では毎年お正月に手作りの大きな門松を玄関に飾っています。今年の門松作りは、利用者さんにも参加していただき、門松の飾りの花餅やしめ縄と一緒に作りました。見学もしていただき、楽しんでいただきました。一年を通して、季節を感じ、楽しむでもらえるよう、色んな行事や飾りつけを行っています。一緒に花を植えたり、見てもらったり、手伝ってもらったりなど、利用者さんが楽しむでもらえるよう考えています。



ギャラリー



「お七夜」 笹山俊一さん

集会室（仏間）前の廊下の壁は絵画や写真のギャラリーとして、入所者や来園者の和みと癒しの空間となっています。月単位で10作品ほどを入れ替え展示しています。今回は西が丘写真愛好会の笹山俊一さんの写真を紹介します。



「希望の朝」 笹山俊一さん

三重ボランティア基金 「40周年記念」感謝状

12月23日三重県社会福祉会館に於いて、三重ボランティア基金「40周年記念」感謝状の贈呈式があり、本園の活動に対して感謝状が贈られました。報徳園では毎月の誕生会でその月の誕生者の利用者の方と職員にプレゼントを渡していますが、その際に基金への募金をお願いしてきました。



コロナ集団感染に際してのご協力についてのお礼

昨年7月下旬から8月下旬にかけて、本園で発生しました新型コロナウイルスの集団感染に際しまして、多くの方々からご支援、ご協力をいただきました。特に同じ老人福祉施設の仲間から、抗原検査キット、衛生用品、飲料品などが届けられたり、介護職員やボランティアの派遣などをしていただいたり、職員一同、大変励まされました。ここに改めて感謝申し上げます。

編集後記

2月にお届けできるよう年末年始の慌ただしい時期に、各部署の担当職員が報徳園だよりの原稿を書いています。園内の何気ない日常や季節の恒例行事など、こうして文字や写真にして改めて見ることで、普段通りの変わらない日々を過ごせることが、利用者の皆さんの安心に繋がっているんだなと感じます。報徳園だよりをご覧頂きありがとうございます。

表彰



長年報徳園に勤務し、その功績により今年度各種表彰を受けた職員を紹介します。

・三重県知事表彰

駒田恵美子（事務職員：勤続32年）
瀬野 須弥（介護職員：勤続27年）

・三重県社会福祉協議会会長表彰

若畑 桂子（調理員：勤続33年）
横山 裕子（介護職員：勤続32年）
伊藤 綾子（生活相談員：勤続30年）

・全国老人福祉施設協議会会長表彰

片岡 伸敏（介護職員：勤続20年）
山中 綾美（看護職員：勤続20年）
鈴木英里子（介護職員：勤続20年）

・全国老人福祉施設協議会感謝状

福永 学（介護職員：勤続15年）
木全 貴大（介護職員：勤続15年）

・三重県老人福祉施設協会会長表彰

梅澤 千晴（介護職員：勤続10年）
和田 峰子（看護職員：勤続10年）